

小5社会「思考のログ化と即時支援で「分かったつもり」を越える—自動車生産を通した自己調整学習の実現—」



- ・問い合わせ・予想・振り返りをカードで蓄積し、思考の流れを可視化
 - ・理解状況に応じたヒントカード・資料・URLの即時個別配付による授業内支援
 - ・見取りとフィードバックによる学びの充実
 - ・年間通した学び方の学び

活用背景・ねらい

これまでの一斉指導や形だけのグループ学習では、**子どもたちが「分かったつもり」「調べたつもり」のまま学習を終えてしまう課題があった。**社会科では、用語の暗記や資料の閲覧だけでは**事象同士の関係や社会の本質に迫ることが難しい**。さらに、自由進度学習や個別最適な学びに取り組む中で、教師は児童の理解度やつまずきを授業中に把握しにくく、児童自身も自分の学びが深まっているかを捉えにくいという不安があった。そこで、**思考過程をデジタルログとして蓄積し、授業内での学び直しと自己調整を可能にする学習環境の構築**をねらった。

成果・効果

ミライシードに蓄積された思考のログを活用することで、児童は前時の考え方と現在の考え方を比較し、自分の理解を客観的に捉えられるようになった。教師からのフィードバックや理解度チェックを通して、「分かったつもり」に気づき、自ら資料や振り返りに戻り学び直す姿が見られた。特に学習の定着に課題のあった児童は、教師から個別に提示された資料をもとに、用語の説明だけでなく根拠をもって記述できるようになった。学びの過程を授業中に見取り、支援できたことで、児童の自己調整的な学習行動が着実に広がった。

授業・取り組みの流れ

①問い合わせを可視化し、学びの焦点をあわせる

世界と日本の自動車生産や販売の事例を提示し、児童が疑問に思ったことや考えたことをオクリンクプラスに書き出す。集まった問い合わせ全体で共有し、ルーブリックと照らし合わせながら、授業内で解決する問い合わせと発展的に調べる問い合わせをシンキングツールを使い整理する。教師は、すべての問い合わせ同列に扱うのではなく、学習目標に迫る問い合わせを意識することで、児童が学びの焦点を絞って学習に向かえるようにする。

②自由進度で調べ、思考を蓄積する

児童は立てた問い合わせとともに、自分のペースで調べ学習を進める。毎時間、問い合わせ・予想・振り返りをオクリングプラスのカードに記録し、思考の流れを蓄積する。教師は、後から振り返りや学びを実感できるよう、継続的なログ化を重視する。

③理解を確認し、学び直す

学習の途中で重要語句や資料の読み取りを自分で確認し、理解が不十分な点に気づいた児童は、再度資料を読み直す。教師は、授業内で学び直しが起こることを視野に入れて**毎時間のフィードバックや学習を深めるための資料を事前に用意する。**

④授業中における個別支援

教師は全員のログを確認し、つまずきが見られる児童に対して、ヒントカードや資料、動画URLを事前に用意しておく。それを実態に応じてオクリンクプラスで個別に送信する。「どこを見ればよいか」を明確にすることで、児童が自力で理解を深められるよう支援する。

⑤年間通した学び方の学び

社会的な見方考え方、育てたい資質能力を育成するために問い合わせ立て方、資料の読み取り方、まとめ方を各単元に位置づけ年間通して指導する。

